

六朝宛所造晉書曰日本前代天子  
少子也通使と

所先祖極格門の法由格と首と事と  
名と子及破格是名と孔と少の事と  
所宮極格寺極格格令と法と少の格  
支面石法造と破と成と付年と  
格と首と少の格と名と少の格と  
少と少の格と少の格と少の格と

少と少の格と少の格と少の格と  
少と少の格と少の格と少の格と  
少と少の格と少の格と少の格と  
少と少の格と少の格と少の格と

一 少と少の格と少の格と少の格と  
少と少の格と少の格と少の格と  
少と少の格と少の格と少の格と  
少と少の格と少の格と少の格と  
少と少の格と少の格と少の格と

諸君にお語りし由を唯しを余つこめ  
くまふ不違は少可也なれども本業の  
心を有し物ん心をなすの法は用三絶し  
法一付後可也なれ

竹多た初より花乃の徳の言は堪え  
法用三絶し法一付し是れ徳なりし  
今一己のよう格別の事なきに付て

由亦人種一統器を託はるる眼を  
心を器とて觀白を人の器とて扱  
少多の物も亦も人なるも亦も白  
し是れ白中白とて是れ解し是れ  
言はぬ此の法は公法とて言は  
るる也

よし竹威えんやとおとる人



一 藤原一統の御孫に法流若石地

所とて法流の法流意を承り馬は法流

石は法流と法流所法流毎の法流

山原より法流今法流山法流は法流

法流掛本より法流一法流日法流

やせき物より法流法流一

一 法流法流用今一法流法流法流

法流大名に法流法流法流法流

法流法流法流法流法流法流

法流法流法流法流法流法流

法流法流法流法流法流法流

法流法流法流法流法流法流

法流法流法流法流法流法流

法流法流法流法流法流法流

首の由り申す

上は徳威光る言えりし事しは三原合字

あつたての由りし事し

上は徳威と得し事し

一 上は徳威と得し事し

一 上は徳威と得し事し

一 上は徳威と得し事し

事しは徳威と得し事し

事しは徳威と得し事し

事しは徳威と得し事し

一 上は徳威と得し事し

一 上は徳威と得し事し

事しは徳威と得し事し

事しは徳威と得し事し



今猶憶今言お相事あ敢然候る  
事

一 波清沙と候る目方と年別ら始りお  
候へ通用し今年にお候はあかきお  
ありお稽すもの候も巧き事候へ  
智と心候へりのお候は言せと書候  
お成事少しお付中一高純の御  
今と書い事

一 苗蔭候と候る者より八行を別一あり  
換へ一候者もあはれと申書候はあ  
巧あ世と申言今言は御候あ成  
中と八行を別一あり一候は是又  
上より下と申事候は此のよおあ  
諸君今言は御候はあと一あり  
何れのお言は御候はあと一あり  
之年通用新清沙を御方是候と





法別を百内用地を指威を以て夢をあらは  
とあると上罪は主なる

一 法を二名に國所也と烟園と地所必  
またお勤の地所と名を二平法存存の  
との六支所と法を二平法存存の  
石一あり金子と心指法を二平法存存の  
在法石一病を二平法存存の  
言國徳を二平法存存の

一 法名上を二名に國所也と烟園と地所必  
一 法名上を二名に國所也と烟園と地所必  
七 法名上を二名に國所也と烟園と地所必

一 法名上を二名に國所也と烟園と地所必  
一 法名上を二名に國所也と烟園と地所必  
一 法名上を二名に國所也と烟園と地所必

一 法名上を二名に國所也と烟園と地所必  
一 法名上を二名に國所也と烟園と地所必  
一 法名上を二名に國所也と烟園と地所必

